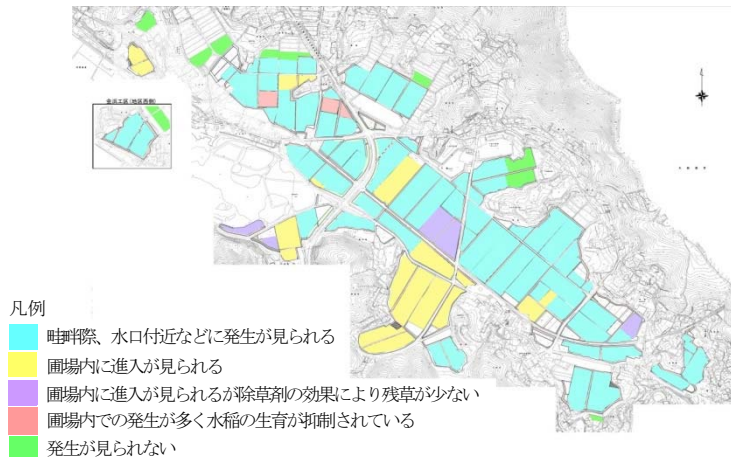


岩手県の津波被災水田で雑草「コウキヤガラ」が発生しています

【1 発生状況と被害状況】

津波被災地では、圃場の復旧により水稻の作付けが再開されています。県内では、震災前は「コウキヤガラ」が水田で雑草化している例は確認されていませんでしたが、震災後復旧した水田で雑草化していることを確認しました。

- (1) 陸前高田市小友地区、大船渡市三陸町吉浜地区の水田を調査したところ、水田雑草「コウキヤガラ」の発生を確認しました。
- (2) 畦畔際、水口付近などに発生が見られる圃場が多い中、一部では、圃場内での発生が多く、水稻の分けつ減少、黄化など生育が抑制される雑草害が見られています。

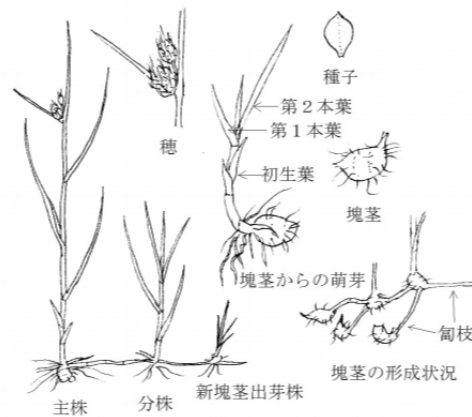


陸前高田市小友地区のコウキヤガラ発生状況(岩手農研 H27. 6. 15、8. 14)

注) 観察調査した圃場のみ色塗り。転作田や発生が見られない圃場より高標高の圃場は調査省略。



吉浜地区で採取したコウキヤガラ
大船渡市三陸町吉浜地区(岩手農研 H27. 6. 15)



コウキヤガラの形態
(小山(2)2012) 種子と塊茎で繁殖します。

【2 留意事項】

- (1) コウキヤガラは、カヤツリグサ科の多年生植物です。直立する3角形の稈と、秋に根茎の先端や基部が肥大して塊茎になるのが特徴です。穂は斑点米カメムシの発生源となります。
- (2) 岩手県での生態は未確認ですが、塊茎の出芽適温が低く、秋田県では、3月に発芽し田植え時期には、初期剤、一発除草剤の効果範囲外まで成長した事例があります。
- (3) 岩手県での防除方法は未検討ですが、除草剤による防除や、生育の進んだ個体を耕起・代掻で土中に鋤き込んだり、水稻収穫後の秋耕、作業機の洗浄等の耕種的防除が有効です。